

平成二十八年年度

金子兜太のふるさとと投句 第二回特選・入選作品

選者 中村琴江先生

特選

百観音結願の証つばめとぶ

東京都

若月 千鶴子

講評

皆野町日野沢の水潜寺は日本百観音霊場の結願寺です。作者は秩父三十四ヶ寺の巡拝を無事成就なされ記念として「結願之証」をいただきました。数々の思いが胸中に湧き観音様の加護と感激されたのでしよう山空につばめが飛び春到来のよろこびの句です。

お仏間に兜太の母や梅ふふむ

嵐山町

橋本 良子

講評

兜太先生の句碑巡りのコースで兜太先生の生家の金子医院に立ち寄らせて頂き壺春堂での作でしょうか、作者はお仏間に座し先生の句集や書物の中の御母上様を偲ばれたのでしようお庭の梅の枝にはもう咲く支度が見えます季語の動かない上品な一句です。

飛入りの手足もどかし盆おどり

群馬県

川端 一美

講評

皆野町の音頭まつりの観客だった作者、音頭の唄やお囃子に誘われ櫓を囲む踊りの輪の中に飛入りしたのです、初めは手足もどかしてしたがすぐにリズムにのれおまつりのクライマックスの渦の中で踊りを堪能されたのでしよう臨場感のある楽しい句です。

入選

大人の部

燭ひとつ灯し去りゆく秋遍路
山峡の風の大河を鯉幟
一切の言葉を拒み滝落つる
観音の指美しき竹落葉
美の山にゴジラのやうな雲の峰
乳搾る子の白き手や牧の夏
秩父路にお田植唄がこだまする
灰汁抜きに挑戦五十路のわらび買う
山里の逆さ堀りなり茄子植うる
老いも子も師の面影を盆踊
万緑や結願寺の妻笑顔
役退いて叶ふ二人の遍路旅
朱印帳にじみの乾く寺の秋
冷や汁に感じる秩父の母の味
父の背を母の背を見つ合歡の盆

小人の部

大自然大きなミミズと出会ったよ
やまのがけほつりとさくらさいている
ウグイスが鳴く春の山きれいな声
猪がぞろぞろとこんにちわ
みの山にたくさんいるよカブト虫
みやまにピカピカ光る大火花
やせつぼちじいさんまける草たいじ
大雲海見下ろす景色破風山
あんどんの光思わすホタルかな
盆休み親せきそろい虫送り
ひまわりは太陽むいてわらつてる
おぼんには空にちようちん地におどり
けごんのたき光の夜に虫の声
うつつてる青空泳ぐめだかかな
夜空まう花火の輪にも笑顔かな

投句方法

役場・皆野駅など町内11か所に設置されている投句箱に、専用の投句用紙が用意してありますので必要事項をご記入ください。

次回選句会

平成28年第二回3月(9月)2月投句分 当季雑詠

問合せ

皆野町商工会 ☎62・1311

さいたま市 皆野町 新井 信雄
新井 信雄
杉本 憲治
福岡 伸男
深谷 嘉郷
深谷 保坂
熊谷 鈴木
深谷 棚橋
川越 小林
秩父 吉田
秩父 設楽
群馬 福田
長瀨 市川
茨城 今泉
東京 山口
長瀨 大前

増田 民雄
新井 憲治
杉本 伸男
福岡 嘉郷
保坂 鈴木
棚橋 和夫
小林 慶昌
吉田 勝彦
設楽 キマ
福田 誠一
市川 健一
今泉 卓也
山口 幸代
大前 英俊

さいたま市 岸谷 美乃
東京 辻 和真
東京 堀田 咲希
皆野 持田 康一
皆野 太幡 宇杏
皆野 久米 このみ (十一歳)
皆野 太幡 琉美花 (十歳)
皆野 権頭 歩希 (十歳)
皆野 新井 稀 (七歳)
皆野 黒澤 さち (七歳)
皆野 松本 桜 (八歳)
皆野 赤岩 しんや (八歳)
皆野 高橋 優里 (九歳)
皆野 関口 立栞 (十歳)
皆野 出牛 千愛 (十歳)